

三雲浄水場配水池点検口建屋改修工事

設計図

	意匠図
A - 1	改修工事特記仕様書 1
A - 2	改修工事特記仕様書 2
A - 3	改修工事特記仕様書 3
A - 4	改修工事特記仕様書 4
A - 5	改修工事特記仕様書 5
A - 6	改修工事特記仕様書 6
A - 7	改修工事特記仕様書 7
A - 8	付近見取図、配置図
A - 9	平面図、屋根伏せ図、天井伏図、 立面図、断面図、仕上表
A - 10	展開図・建具表・養生図
A - 11	平面詳細図・段面詳細図

③ 防水改修工事

1アスファルト防水

(3.3.3)
(表3.3.3)～
(表3.3.10)

工 法	種 別	施 工 箇 所
・ P1B	・ B-1 ・ B-2	
・ P1E		
・ P2E	・ E-1 ・ E-2	

改質アスファルトルーフィングシート

種類 ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ ()

厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ ()

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート

種類 ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ ()

厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ・ ()

断熱工法の断熱材 (P1B1, P2A1, POD1, M3D1, M4D1)

材質 ・ ()

・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A (スキンあり)

・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 1号

・ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種 2号

厚さ ・ ()

ルーフドレン回り及び立上がり部周辺断熱材の張りじまい位置 ・ 図示 (図面番号:)

脱気装置 (M3D, POD, POD1, M3D1, M4D1)

・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号:), 材質 ())

・ 設けない

・ 仕上塗料 種類 () 使用量 ()

保護コンクリートの厚さ こて仕上げ ・ 水下80mm以上 ・ ()

床タイル張り ・ 水下60mm以上 ・ ()

こて仕上げの場合のコンクリートの平たんさ ・ a種 ・ b種 ・ c種

保護層 ・ 設ける ・ 設けない

屋上排水溝の適用 ・ 適用する

立上り保護 ・ 乾式保護材 ()

・ れんが (材種 ・ JIS R1250)

改質アスファルトシート

種類 ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・ ()

厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・ ()

粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシート

種類 ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・ ()

厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ・ ()

断熱工法の断熱材 (M3AS1, M4AS1, POAS1)

材質、厚さ ()

図示 ・ ()

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
・ M4AS	・ AS-T1 ・ AS-T2		
	・ AS-J2		

脱気装置

・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号:), 材質 ())

・ 設けない

ルーフィングシート

種類 ・ 改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による ・ ()

厚さ ・ 改修標準仕様書(表3.5.1)～(表3.5.3)による ・ ()

絶縁用シート ・ 発泡ポリエチレンシート

固定金具の材質及び寸法形状 ・ 図示 ()

断熱工法の断熱材 (POS1, S4S1, S3S1, M4S1)

材質、厚さ ()

・ 図示 ()

工法	種別	種別	仕上塗料
・ S3S	・ S-F1 (S1-F1)		
・ S3S1	・ S-F2 (S1-F2)		

脱気装置

・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号:), 材質 ())

・ 設けない

既存防水層下地がPVCコンクリート部材の場合

目地処理 ・ 図示 (図面番号:)

増張り ・ 図示 (図面番号:)

機械式固定方法

風圧力に対応した工法 ・ 図示 (図面番号:)

保護層の施工 ・ 図示 (図面番号:)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料
・ POX	・ X-1 ・ X-2	屋根、立上り	
・ L4X	・ X-1H ・ X-2H		

脱気装置

・ 設ける (設置数量 ・ 図示 (図面番号: A-9), 材質 (SUS))

・ 設けない

工法	種別	施工箇所
・ P1Y	・ Y-2 ・	
・ P2Y		

保護層 ・ 図示 (図面番号:)

(M4AS, M4AS1, M4G, M4D1) ・ 行う ・ 行わない

(L4X) ・ 行う ・ 行わない

4塗膜防水

(3.6.3)
(表3.6.1)～
(表3.6.3)(1)

(3.6.3)(2)

5既存防水層表面の仕上塗装の除去

(3.2.6)(3)(イ)
(3.2.6)(3)(ハ)

⑥シーリング

(3.7.2)
(表3.7.1)

(3.7.4～7)

(3.7.8)

7とい

(3.8.2)
(表3.8.1)
(表3.8.2)

材料

種類	材種	施工箇所
・ SR-1	シリコーン系	
・ MS-2	変成シリコーン系	サッシ周囲
・ PS-2	ポリサルファイド系	
・ PU-2	ポリウレタン系	

工法

・ シーリング充填工法

・ シーリング再充填工法

・ 拡幅シーリング再充填工法

・ フリッジ工法

シーリング材の試験

・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 ・ 行わない

材種 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (カラー) ・ 配管用鋼管 (白管)

・ ()

とい受金物及び足金物

といの材種	形状	取付け間隔

工法 ・ 図示 (図面番号:)

部材の種類

・ 押出し250形

・ 押出し300形

・ 押出し350形

・ 板材折曲げ形 (本体幅 () mm、板厚 ・ 2.0mm ・ ())

固定金具の間隔 (mm)

固定方法 ・ ()

表面処理 ・ ()

工法 既存笠木等の撤去 ・ 図示 (図面番号:)

下地補修の工法 ・ 図示 (図面番号:)

板材折曲げ形の笠木の取付方法 ・ 図示 (図面番号:)

笠木固定金具の工法 ・ 図示 (図面番号:)

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。

工事区分	材料名	保証年数
防水工事	・ 防水	・ 10年 ・ 年

※防水施工業者、製作メーカー、受注者の連名により提出する。

④外壁改修工事

1施工数量調査

(4.1.4)
(4.1.5)

(4.1.5)

2改修工法の種類

(4.1.4)
(4.1.5)

外壁	種類	改修工法
・ コンリート打放し 仕上げ外壁	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法
		・ Uカットシール材充填工法
		・ シール工法
	欠損部	・ 充填工法
	ひび割れ部	・ 樹脂注入工法
		・ Uカットシール材充填工法
	欠損部	・ シール工法
		・ 充填工法
		・ モルタル塗替え工法
・ モルタル塗り仕 上げ外壁	浮き部	・ アンカーピンニング
		・ 部分エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法
		・ 注入口付アンカーピンニング
		・ 部分エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法
		・ 充填工法
		・ モルタル塗替え工法
		・ 樹脂注入工法
		・ タイル部分張替え工法
		・ タイル張替え工法
		・ アンカーピンニング
		・ 部分エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法
		・ 注入口付アンカーピンニング
		・ 部分エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面エポキシ樹脂注入工法
		・ 全面ポリマーセメントスラリー注入工法
		・ エポキシ樹脂注入タイル固定工法
		・ タイル部分張替え工法
		・ タイル張替え工法
		・ 目地ひび割れ部改修工法
		・ 伸縮調整目地改修工法
		・ 薄付け仕上塗材塗り
		・ 厚付け仕上塗材塗り
		・ 複層仕上塗材塗り
		・ 可とう形改修用仕上塗材塗り
		・ マスチック塗材塗り
		・ 外壁用塗膜防水材塗り

3改修工法等

(4.2.4)(1)
(4.2.4)
(4.2.5)
(4.3.6)
(4.4.6)

(4.2.4)(2)
(4.2.6)
(4.3.7)

(4.2.4)(3)
(4.2.7)
(4.3.8)

(4.2.4)(4)
(4.2.8)
(4.3.9)

(4.3.5)(5)
(4.3.10)

(4.3.5)(6)
(4.3.11)(4.4.9)
(図4.3.1)

(4.3.5)(6)
(4.3.12)(4.4.10)
(図4.3.2)

(4.3.5)(6)
(4.3.13)(4.4.11)
(図4.3.2)

(4.3.5)(7)
(4.3.14)(4.4.12)
(図4.3.3)

(4.3.5)(7)
(4.3.15)(4.4.13)
(図4.3.4)

(4.3.5)(7)
(4.3.16)(4.4.14)
(図4.3.4)

(4.4.5)(4)
(4.4.8)
(表4.4.5)

(4.4.15)

(4.4.5)(5)
(4.4.16)

・ 樹脂注入工法

種類

・ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

注入量 (25ml) 注入間隔 (200mm、250mm)

・ 手動式エポキシ樹脂注入工法

注入量 () 注入口間隔 ()

・ 機械式エポキシ樹脂注入工法

注入量 () 注入口間隔 ()

材料 エポキシ樹脂JIS A6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)

コア抜取検査 ・ 行う ・ 行わない

・ 抜取り個数 ()

・ 抜取り部分補修方法 ()

・ Uカットシール材充填工法

材料 ・ シーリング用材充填

(・ PU-1 ・ PU-2 ・ ())

・ 可とう性エポキシ樹脂充填

シーリング材の上にポリマーセメントモルタル充填

・ 行う ・ 行わない

・ シール工法

材料 ・ バテ状エポキシ樹脂

・ 可とう性エポキシ樹脂

・ 充填工法

材料 ・ エポキシ樹脂モルタル

・ ポリマーセメントモルタル

・ モルタル塗替え工法

材料 ・ 現場調査材料 ・ 既調査材料

・ 既製目地材の適用及び形状 ()

・ 仕上げ厚 ()

・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

アンカーピンの本数 ・ 標準 ・ ()

材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ()

・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法

アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・ ()

材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ()

・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・ ()

材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ()

・ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法

注入口付アンカーピンの本数 ・ 標準 ・ ()

材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ()

呼び径 ・ 6mm ・ ()

・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法

注入口付アンカーピンの本数及び注入口の数 ・ 標準 ・ ()

材料 ・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ()

呼び径 ・ 6mm ・ ()

・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法

注入口付アンカーピンの本数及び注入口の配置 ・ 標準 ・ ()

材料 ・ ポリマーセメントスラリー ()

・ 注入口付アンカーピン (・ ステンレス鋼 (SUS304) ・ ())

呼び径 ・ 6mm ・ ()

・ タイル部分張替え工法

張替え材料 ・ ポリマーセメントモルタル

・ 接着剤 (一液反応硬化形変成シリコーン樹脂) ・ ()

施工箇所	形状	寸法	耐滑り性	標準・特注色の別	耐凍害性の有無

・ 役物 (・ 一体成形 ・ 接着加工)

・ 試験張り ・ 行う ・ 行わない

・ 見本焼き ・ 行う ・ 行わない

・ 既調査モルタル ・ 使用する ・ 使用しない

・ タイル張替え工法

タイルの種類	タイルの大きさ	工法	塗り厚 (mm)
・ 外装 タイル	小口平 二丁掛 100角	・ 密着張り	5～8
		・ 改良圧着張り	下地側 4～6 タイル側 1～3
・ ユニットタイル	50二丁以下	・ マスク張り	3～4
		・ モザイクタイル貼り	3～5

・ 注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法

注入口付アンカーピンの本数 (本)

・ 目地ひび割れ部改修工法

・ 伸縮調整目地改修工法

伸縮調整目地

(位置 寸法 ×)

検査 シーリング接着性試験

・ 行う (・ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験)

アルテック設計

三重県津市大谷町233番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192

一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

原図：A2

三雲浄水場配水池点検口建屋改修工事

改修工事特記仕様書2

A - 2

S: 1/100

8 の 1 耐震改修工事 共通事項	7 アクリル樹脂系 非水分散形塗料 (NAD) (7.7.2) (表7.7.1)	種別 ・ A種 ・ B種
	⑨ 耐候性塗料塗り (DP) (7.8.2)～ (7.8.4) (表7.8.1)～ (表7.8.3)	上塗り等級 ① 1級（フッ素系） ・ 2級（シリコン系） ・ 3級（ポリウレタン系） 下地 コンクリート面及び 押出成形セメント板面 種別 ・ A－1種 ・ A－2種 ・ B－1種 ・ B－2種 ・ C－1種 ・ C－2種
	9 つや有合成樹脂 エマルションペ イント塗り (EP-6) (7.9.2)～(7.9.5) (表7.9.1)～ (表7.9.4)	種別 下地 コンクリート、モルタル、 プaster、せつこうボード、 その他ボード面 種別 ・ A種 ・ B種 ・ C種 木部（屋内） ・ A種 ・ B種 ・ C種 鉄鋼部（屋内） ・ A種 ・ B種 ・ C種 亜鉛めっき鋼面（屋内） ・ A種 ・ B種 ・ C種
8 の 2 耐震改修工事 撤去工事	① 合成樹脂エマ ルションペイ ント塗り（EP） (7.10.2) (表7.10.1)	種別 ・ A種 ② B種 ・ C種 しみ止め ・ ()
	1 1 ウレタン樹脂 ワニス塗り (UC) (7.11.2) (表7.11.1)	種別 ・ A種 ・ B種 工程1の着色 ・ 適用する ・ 適用しない
	1 2 ステイン塗り (OS) (7.12.2) (表7.12.1)	種類 ・ ビグメントステイン塗り ・ オイルステイン塗り オイルステイン塗りの工程、塗料 ・ ()
8 の 3 耐震改修工事 鉄筋工事	1 3 木材保護塗料 塗り（WP） (7.13.2) (表7.13.1)	種別 ・ A種 ・ B種
	8 の 1 耐震改修工事 共通事項	（一般事項） 1 適用範囲 (8.1.1) (8.1.2)
	1 既存部分の撤去 等 (8.21.2)	工事内容 ・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 鉄骨プレースの設置工事 ・ 柱補強工事（溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法） ・ 柱補強工事（鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法） ・ 柱補強工事（連続繊維補強工法） ・ 耐震スリット新設工事 ・ 免震改修・制振改修工事 工事種別 ・ 鉄筋工事 ・ あと施工アンカー工事 ・ コンクリート工事 ・ 鉄骨工事 ・ グラウト工事 ・ 連続繊維補強工事 ・ スリット新設工事 ・ 免震改修、制振改修工事 ・ 土工事及び地業工事
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	2 既存構造体の撤去 (8.21.2) (8.22.2) (8.23.2) (8.24.4)	撤去の範囲 ・ 図示（図面番号： ） ・ 新設のコンクリート、モルタル、グラウト材、鉄骨、連続繊維に接する部分 ・ 既存コンクリート撤去範囲に面する部分 ・ () 既存設備機器、配管撤去、新設、移設等処置 本工事の範囲 ・ 本工事の範囲として図示された設備機器及び配管、壁類の撤去及び処分 ・ 設備機器及び配管、壁類の撤去及び処分は本工事の範囲としない。 撤去範囲 図示（図面番号： ） 既存構造体の撤去 撤去範囲 ・ 図示（図面番号： ） はつりだした鉄筋及び鉄骨の処置 既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の処断 鉄筋の処断 ・ 既存鉄筋は処断せず残す ・ 図示（図面番号： ） ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし ・ コンクリートの撤去範囲の周囲 より一定長さを残し処断する ・ 図示（図面番号： ） ・ 全ての撤去部分 ・ () ・ 適用なし ・ コンクリート撤去範囲の鉄筋は 処断する ・ 処断せず残す範囲を除く撤去する既存鉄筋コンクリートの範囲 ・ () はつりだした鉄筋の処置 ・ 鉄筋に損傷を与えないよう適切な養生を施す。 ・ () はつりだした鉄骨の処置 ・ 発泡スチロール等で養生する。 ・ ()

8 の 3 耐震改修工事 鉄筋工事	(既存部分の処理) 3 既存構造体コン クリート面の 目荒らし (8.21.3) (8.22.3) (8.23.3)	既存構造体コンクリート面の目荒らし 目荒らし程度 ・ 平均深さ2～5mmで最大深さ5～7mm程度の凹面を、打継ぎ面の15～30%程度の面積となるように施す。 ・ 図示（図面番号： ）
	1 鉄筋 (8.2.1) (表8.2.1)	材料 改修標準仕様書(表8.2.1)による 種別 径(mm) ・ SD295 ・ SD345 ・ SD390 ・ ()
	2 溶接金網 (8.2.2)	網目の形状、寸法及び鉄線の径 網目の形状、寸法 鉄線の径(mm)
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	3 加工 (8.3.2)	90°未満の折曲げの内法直径 ・ 図示（図面番号： ）
	4 鉄筋の継手及び 定着 (8.3.4)	径 部位 重ね継手 ・ D16以下 ガス圧接 ・ D19以上 主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ ・ 改修標準仕様書(8.3.4)(3)(7)による ・ 図示（図面番号： ） 継手位置 ・ 各部配筋参考図による ・ 図示（図面番号： ） 先組み工法等 ・ 柱・梁主筋の継手を同一箇所に設ける 鉄筋の定着長さ ・ 改修標準仕様書(表8.3.4)による ・ (表8.3.4)のフックありの定着長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法 図示（図面番号： ） ・ 図示（図面番号： ） 機械式定着工法 適用箇所 () 種類 () 帯筋組立の形、継手及び定着 ・ 図示（図面番号： ） 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ・ () mm ・ 図示（図面番号： ） 圧接完了後の試験 超音波探傷試験 ・ 行う ・ 行わない 割製補強筋の適用 種類 材料 材種 径 本数・ピッチ 適用箇所 ・ スパイラル筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼 ・ () ・ () ・ () ・ スパイラルのピッチ(mm) () ・ はしご筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼(異形鉄筋) ・ () ・ 295 ・ () ・ 10 ・ () 壁内方向筋 () 壁面外方向筋 () ・ 機械式継手 種類 () 性能 () 適用箇所 () 鉄筋相互のあき () mm 施工完了後の継手部の試験 () 不合格となった継手部への措置等 () ・ 溶接継手 工法 () 性能 () 適用箇所 () 鉄筋相互のあき () mm 溶接完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置等 ()
	(現場打ち鉄筋コン クリート壁の増設工 事及び鉄骨プレース の設置工事等)	
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	5 鉄筋のかぶり厚 さ及び間隔 (8.3.5) (表8.3.6)	鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ ・ () mm
	6 各部配筋 (8.3.8)	・ 図示（図面番号： ）
	7 ガス圧接 (8.3.8)	圧接完了後の試験 超音波探傷試験 ・ 行う ・ 行わない
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	8 割製補強筋 (8.21.6) (8.22.7)	割製補強筋の適用 種類 材料 材種 径 本数・ピッチ 適用箇所 ・ スパイラル筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼 ・ () ・ () ・ () ・ スパイラルのピッチ(mm) () ・ はしご筋 ・ 鉄筋コンクリート用 棒鋼(異形鉄筋) ・ () ・ 295 ・ () ・ 10 ・ () 壁内方向筋 () 壁面外方向筋 ()
	9 鉄筋の機械式継 手及び溶接継手 (8.4.2) (8.4.3)	・ 機械式継手 種類 () 性能 () 適用箇所 () 鉄筋相互のあき () mm 施工完了後の継手部の試験 () 不合格となった継手部への措置等 () ・ 溶接継手 工法 () 性能 () 適用箇所 () 鉄筋相互のあき () mm 溶接完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置等 ()
	10 鉄筋の溶接 (8.4.4)	溶接完了後の溶接部の試験 () 不合格となった溶接部への措置等 ()
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	(コンクリート工事一 般事項) 1 コンクリートの 種類及び強度 (8.1.3) (8.1.4)	コンクリートの種類 ・ I類 ・ II類 普通コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c [N/mm ²] 適用範囲 気乾単位 容積質量 スランプ ・ 24 ・ 2.3t/m ³ 程度 ・ () ・ ()
	(8.9.1) (8.9.2) (表8.9.1)	軽量コンクリートの設計基準強度 設計基準強度F _c [N/mm ²] 種類 適用箇所 気乾単位 容積質量 スランプ ・ 36 ・ 1種 ・ 2種 ・ ()
	2 構造体コンク リートの仕上り (8.1.4) (表8.1.4) (表8.1.5)	合板せき板を用いる場合の打放し仕上げの種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 コンクリートの仕上りの平たんさ ・ a種 ・ b種 ・ c種

8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	(コンクリート) 3 コンクリートの 材料 (8.2.5) (表8.2.3)	セメントの種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントA種 ・ シリカセメントA種 ・ フライアッシュセメントA種 ・ () ・ 高炉セメントB種及びフライアッシュセメントB種 適用箇所 () 骨材 アルカリシリカ反応性による区分 ・ AL（コンクリート中のアルカリ総量を規制） ・ A（安全と認められる骨材を使用） なお、ALで規制できない場合は、Aとし、その試験は、施工着手前、工事中1回／6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。 ・ 特殊な骨材の使用 ・ フェロニッケルスラグ細骨材 ・ 銅スラグ細骨材 ・ 電気炉酸化スラグ骨材 ・ 再生骨材H（普通エコセメントを使用するコンクリートに限る）
	4 混和材料 (8.2.5)	混和剤 混和剤の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(a)による ・ 図示（図面番号： ） ・ 混和材 混和材の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5)(4)(b)による ・ 図示（図面番号： ）
	5 調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)	構造体強度補正值(S) ・ 3N/mm ² ・ 6N/mm ² ・ ()
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	6 養生 (8.7.7)	・ 普通エコセメント使用の場合の湿潤養生期間 ()
	7 型枠 (8.2.7) (8.7.8)	材料 ・ 複合合板（厚さ ・ 12mm ・ ()） スリーブ ・ 材種 () 規格 () 型枠置期間及び取外し ・ 普通エコセメント使用の場合の最小置期間 ()
	8 暑中コンクリ ート (8.10.2)	構造体強度補正值(S) ・ 6N/mm ² ・ ()
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	9 無筋コンクリ ート (8.11.1)	コンクリートの種類 ・ 普通コンクリート ・ () 設計基準強度 ・ 18N/mm ² ・ () スランプ ・ 15cm ・ 18cm ・ ()
	(現場打ち鉄筋コン クリート壁の増設工 事、溶接金網巻き工 法及び溶接閉鎖フ ープ巻き工法) 10 コンクリートの 打込み工法等 (8.21.6) (8.23.5)	部位別のコンクリートの打設工法の指定 補強工法 打設工法 部位 ・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2) ・ 図示（図面番号： ） ・ () ・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(8) ・ 図示（図面番号： ） ・ () ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示（図面番号： ） ・ () ・ () ・ 図示（図面番号： ） ・ () 鉄筋コンクリート柱の溶接金 網巻き工法及び溶接閉鎖フ ープ巻き工法 ・ 流込み工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(7)及び(2) ・ 全ての増設壁 ・ 図示（図面番号： ） ・ () ・ 圧入工法 改修標準仕様書(8.21.8)(1)(4)及び(3) ・ 全ての増設壁 ・ 図示（図面番号： ） ・ () ・ 工法指定なし ・ 全ての増設壁 ・ 図示（図面番号： ） ・ () ・ () ・ 図示（図面番号： ） ・ ()
	(8.23.6)	柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ・ 発泡プラスチック保温材等を埋込む ・ () 柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示（図面番号： ） 打ち込みコンクリート又はグラウト材の厚さ ・ 図示（図面番号： ） ・ 60mm ・ () ・ 図示（図面番号： ）
8 の 4 耐震改修工事 コンクリート工事	11 増設壁工事後の 仕上げ (8.21.10) (8.23.7)	・ 図示（図面番号： ）

8 の 5 耐震 改修 工事 あと 施工 アンカー 工事	(あと施工アンカー)	種類
	1 あと施工アンカーの材料 (8. 2. 4) (表8. 2. 2)	・ 金属系 セットの方式 ・ 本体打込み式 (・ 改良型 ・ 従来型) 径及び埋込み長さ ・ 図示 (図面番号:) 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:) せん断耐力 ・ 図示 (図面番号:) 接合筋の種類・径・長さ ・ 図示 (図面番号:) ・ 接着系 アンカーの種類 ・ カプセル型回転・打撃式 ・ () 接着剤の品質 ・ 有機系 ・ 無機系 径及び埋込み長さ ・ 図示 (図面番号:) 引張耐力 ・ 図示 (図面番号:) せん断耐力 ・ 図示 (図面番号:) アンカー筋の種類 ・ 図示 (図面番号:) アンカー筋の新設壁内への定着長さ ・ 図示 (図面番号:) あと施工アンカーの性能確認試験 ・ 行う ・ 行わない
8 の 6 耐震 改修 工事 鉄骨 工事	2 あと施工アンカーの施工 (8. 12. 4) (8. 12. 6) (8. 12. 7)	穿孔 埋込み配管等の調査の方法 ・ 鉄筋探知機 (金属探知機) により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ・ はつり出しによる。 ・ () あと施工アンカーの施工確認試験 ・ 実施する ・ 実施しない 試験方法 ・ 引張試験機による引張試験 ・ () 1 ロットの単位 ・ 1 日に施工されたものの径及び仕様ごと ・ () 試験の箇所数 ・ 1 ロットに対し 3 本 (無作為) ・ () 確認強度 ・ () 場所打ちコンクリート壁の打増部に用いる既存部とのシアコネクタ 種類 ・ 金属系あと施工アンカーの異形差筋アンカー ・ 接着系あと施工アンカーの異形差筋アンカー 径 [mm] ・ D 1 0 長さ [mm] ・ 増打壁厚 - 4 0 ・ () 彫込み深さ [mm] ・ 5 d (d: シアコネクタの径) 以上 ・ () 間隔 [mm] ・ 5 0 0 × 5 0 0 シアコネクタとセパレーターの兼用 ・ 兼用してもよい ・ 兼用しない ・ ()
	3 シアコネクタ	

8 の 6 耐震 改修 工事 鉄骨 工事	1 鉄骨製作工場 (8. 1. 5)	㈩日本鉄骨評価センター又は㈩全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ J ・ R ・ M ・ H ・ S
	2 鉄骨製作工場における施工管理技術者 (8. 1. 6)	施工管理技術者 (鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等) の配置 ・ しない ・ する
8 の 7 耐震 改修 工事 グラウト 工事	3 鋼材 (8. 2. 8)	種類・形状及び寸法 ・ 図示 (図面番号:)
	4 高力ボルト (8. 2. 9) (8. 14. 2) (8. 14. 7)	高力ボルトの適用 ・ トルシア形高力ボルト 2 種 (S10T) ・ JIS形高力ボルト 2 種 (F10T) ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト 1 種 (F8T相当) ねじの呼び ・ 図示 (図面番号:) すべり試験 ・ 行う (試験方法等 図示: 図面番号) JIS形・ナット回転法かつボルト長がねじの 5 倍を超える場合の回転量 ・ ()
8 の 8 耐震 改修 工事 柱補強 工事	5 溶接材料 (8. 2. 10)	・ 改修標準仕様書 (8. 2. 10) (1) (2) 以外の溶接材料 材料及び使用箇所 ・ 図示 (図面番号:)
	6 仮組 (8. 13. 10)	仮組の実施 ・ 実施する () ・ 実施しない
8 の 9 耐震 補強 工事 スリット 新設 工事 免震 改修 工事 制振 改修 工事	7 溶接作業を行う技能資格者 (8. 15. 3)	溶接作業における技能資格者の技量付加試験 ・ 実施する () ・ 実施しない
	8 溶接の準備 (8. 15. 4)	開先の形状 ・ 図示 (図面番号:)
8 の 10 その他 工事	9 溶接施工 (8. 15. 7)	鋼製エンドタブの切断 ・ 適用箇所 図示 (図面番号:) 切断面の仕上げ ・ () 鋼製エンドタブに代わるその他の工法 鋼製エンドタブに代わるその他の工法については、代替エンドタブ (セラミックタブ又はフラックスタブ) を用いたものとし、工法の採用にあたっては、以下の項目の両方とも満足することを条件とし、監督員の承諾を受けること。 1. 相当数の代替エンドタブによる溶接を行ったことがある工場での製作であること。 2. 製作工場が J、R、M グレードの場合は、溶接技能者が N P O 法人日本エンドタブ協会による固形タブに係るエンドタブ施工講習修了者 (溶接技能者・A 級以上) 又は A W 検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。また、製作工場が H、S グレードの場合は、溶接技能者が A W 検定協議会による代替エンドタブ技量認定資格者とする。こと。 板厚が異なる場合の突合せ継手溶接部 ・ 低応力高サイクル疲労を受ける部位 図示 (図面番号:) スカロップの形状 ・ 図示 (図面番号:) 溶接部の外観試験 ・ 試験方法 () ・ 確認方法 () 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 工場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書 (令和 4 年版) (7. 6. 12) (イ) による。 平均出検品質限界 (AQL) ・ 4. 0% ・ 2. 5% ・ () 検査水準 ・ 第 6 水準 ・ () ロットの構成 () 工事現場溶接の場合 ・ 全数試験とする ・ 公共建築工事標準仕様書 (令和 4 年版) (7. 6. 12) (イ) による。 平均出検品質限界 (AQL) ・ 4. 0% ・ ()
	1 0 溶接部の試験 (8. 15. 12)	

8 の 7 耐震改修工事 グラウト工事	1 1 鉄骨の錆止め塗装 (8. 17. 2) (8. 17. 4)	鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） ・ 改修標準仕様書(7.3.2)(表7.3.1)（ ）種 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示（図面番号： ） ・ 改修標準仕様書(7.3.2)(表7.3.1)（ ）種 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ・図示（図面番号： ）												
	1 2 耐火被覆材の種類及び性能 (8. 18. 2) (8. 18. 3)	<table><tr><th>部位</th><th>種類</th><th>材料・工法</th><th>耐火性能</th></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>	部位	種類	材料・工法	耐火性能								
	部位	種類	材料・工法	耐火性能										
1 3 ブレース設置工事後の仕上げ (8. 22. 9)	・ 図示（図面番号： ）													
1 4 スタッド (8. 2. 11)	スタッドの種類 ・（ ）													
8 の 7 耐震改修工事 グラウト工事	(グラウト工事) 1 モルタル及びグラウト材 (8. 2. 6) (8. 2. 12) (表8. 2. 5) (表8. 2. 10)	構造体用モルタル ・ 改修標準仕様書(8. 2. 6)及び(8. 2. 12)による。 無収縮モルタル ・ 改修標準仕様書(8. 2. 12)(1)による ・（ ） グラウト材 ・ 改修標準仕様書(8. 2. 12)(2)による。												
	(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事及び鉄骨プレースの設置工事等)	増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法 <table><tr><th>部位</th><th>処理方法</th><th>備考</th></tr><tr><td>・ 増設壁の上部</td><td>・ グラウト材を注入 ・（ ）</td><td>・ 寸法は図示による</td></tr><tr><td>・（ ）</td><td>・（ ）</td><td>・（ ）</td></tr></table>	部位	処理方法	備考	・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ・（ ）	・ 寸法は図示による	・（ ）	・（ ）	・（ ）			
	部位	処理方法	備考											
・ 増設壁の上部	・ グラウト材を注入 ・（ ）	・ 寸法は図示による												
・（ ）	・（ ）	・（ ）												
2 既存構造体との取合部の処理方法 (8. 21. 9) (8. 22. 7)														
8 の 8 耐震改修工事 柱補強工事	(連続繊維補強工事) 1 連続繊維シート等による工法 (8. 24. 1)	連続繊維による補強、補修工法 ・ (財)日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・（ ）												
	2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料 (8. 2. 13)	連続繊維の材料 ・（ ） 工法 ・（ ） 引張強度（含浸硬化後） ・（ ） ヤング係数（含浸硬化後） ・（ ）												
	3 連続繊維シートの施工準備	仕上げモルタルの除去 ・ 既存構造躯体面まで除去する ・ モルタル除去は行わない ・（ ） 既存モルタルの圧縮強度測定 ・ 行う（ ） ・ 行わない ひび割れ部の改修工法 ・ 樹脂注入工法 ・ 珪カッシーリング材充填工法 ・ シール工法												
	4 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8. 23. 6)	柱頭柱脚の隙間寸法 ・ 図示（図面番号： ）												
	5 耐震補強後の仕上げ (8. 23. 7) (8. 24. 7)	・ 図示（図面番号： ）												
	6 炭素繊維シートの施工	炭素繊維の目付量 ・ 図示（図面番号： ） ・ 200g/m2 ・ 300g/m2 ・（ ） 炭素繊維シートの巻き数 ・ 図示（図面番号： ） ・ 1巻き ・ 2巻き ・（ ）												
	7 連続繊維補強材の強度試験 (8. 24. 6)	引張強度試験 ・ 実施する（JIS A1191に準拠する） ・ 実施しない 試験数量（ ） 付着強度試験 ・ 実施する（JIS A6909に準拠する） ・ 実施しない 試験数量（ ）												

8 の 9 耐震補強工事 スリット新設工事 免震改修工事 制振改修工事	(耐震スリット新設工事)	耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状																																																				
	1 スリットの種類 (8. 25. 1) (8. 25. 2)	<table><tr><td></td><td>一般型</td><td>一面せん断型</td><td></td></tr><tr><td>記号</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>形状</td><td>・ 図示 (図面番号：)</td><td>・ 図示 (図面番号：)</td><td></td></tr><tr><td>幅W (mm)</td><td>・ 図示 (図面番号：) ・ ()</td><td>・ 図示 (図面番号：) ・ ()</td><td></td></tr><tr><td>既存鉄筋の処理</td><td>・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()</td><td>・ 切断してよい ・ ()</td><td></td></tr></table> <table><tr><td colspan="4">部分スリットの形状</td></tr><tr><td></td><td>片側スリット</td><td>両面スリット</td><td></td></tr><tr><td>記号</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>形状</td><td>・ 図示 (図面番号：)</td><td>・ 図示 (図面番号：)</td><td></td></tr><tr><td>幅W (mm)</td><td>・ 図示 (図面番号：) ・ ()</td><td>・ 図示 (図面番号：) ・ ()</td><td></td></tr><tr><td>目地部の残存厚さ</td><td>・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td><td>・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td><td></td></tr><tr><td>ts (mm)</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td><td></td></tr><tr><td>既存鉄筋の処理</td><td>・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()</td><td>・ 存置する ・ 切断してよい</td><td></td></tr></table>		一般型	一面せん断型		記号				形状	・ 図示 (図面番号：)	・ 図示 (図面番号：)		幅W (mm)	・ 図示 (図面番号：) ・ ()	・ 図示 (図面番号：) ・ ()		既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 切断してよい ・ ()		部分スリットの形状					片側スリット	両面スリット		記号				形状	・ 図示 (図面番号：)	・ 図示 (図面番号：)		幅W (mm)	・ 図示 (図面番号：) ・ ()	・ 図示 (図面番号：) ・ ()		目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下		ts (mm)	・ ()	・ ()		既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 存置する ・ 切断してよい	
		一般型	一面せん断型																																																			
記号																																																						
形状	・ 図示 (図面番号：)	・ 図示 (図面番号：)																																																				
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号：) ・ ()	・ 図示 (図面番号：) ・ ()																																																				
既存鉄筋の処理	・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 切断してよい ・ ()																																																				
部分スリットの形状																																																						
	片側スリット	両面スリット																																																				
記号																																																						
形状	・ 図示 (図面番号：)	・ 図示 (図面番号：)																																																				
幅W (mm)	・ 図示 (図面番号：) ・ ()	・ 図示 (図面番号：) ・ ()																																																				
目地部の残存厚さ	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下	・ 壁厚の1/2以下かつ70mm以下																																																				
ts (mm)	・ ()	・ ()																																																				
既存鉄筋の処理	・ 存置する ・ 既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	・ 存置する ・ 切断してよい																																																				
2 スリットの施工	スリット部の配管等の調査 範囲 ・ スリット新設部に伴う鉄筋コンクリートの撤去範囲全て。 ・ 図示 (図面番号：) ・ () 方法 ・ 鉄筋探査機 (金属探知器) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 スリットの逃げ位置 壁上部部 ・ 梁との接合部 ・ () 壁の柱きわ部 ・ 柱の仕上げを逃がたきわ部 ・ () 壁下部部 ・ 床仕上げ上部 ・ 床体上部 ・ () 撤去部の補修 ・ 図示 (図面番号：) 充填材 ・ 耐火材 使用箇所 () 仕様 () ・ 遮音材 使用箇所 () 仕様 () 3 免震・制振改修 (8. 26. 1)～ (8. 27. 9)	免震改修、制振改修に関する仕様は、図示する。																																																				

8 の 10 その他工事	1 土工事 (8. 28. 2) (8. 28. 3)	既存杭の撤去 ・ 図示 (図面番号：) 埋戻し及び盛土の材料及び工法 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 建設発生土の処理 ・ 処分地指定 処分地 () ・ 処分地未定につき相互協議する。 暫定運搬距離 ・ 8km ・ 4km ・ () 山留めの撤去 ・ 撤去 (鋼矢板等の抜き跡の処理 直ちに砂で充填する ・ ()) ・ 存置
	2 地業工事 (8. 28. 4)	杭の施工監理 杭工事特記仕様書による。 適用基準 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」 (平成28年3月4日) 施工記録 受注者は、杭の施工期間中は、1 週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておくこと。 根拠資料 共通仕様書、特記仕様書及びその他基準書の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第3 1 条第4 項又は第5 項 (第3 8 条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から1 0 年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。 試験杭及び試験掘 ・ 試験杭 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号：) による。 ・ 試験掘 位置、本数及び寸法は図示 (図面番号：) による。 杭の支持層 支持層の位置、土質、杭の根入れ長さ 図示 (図面番号：) ・ () 水平方向の位置ずれの精度 ・ () mm 以下 杭の載荷試験 試験方法 ・ 鉛直載荷 ・ 水平載荷 ・ () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置 ・ 図示 (図面番号：) 載荷荷重 (kN) 報告書 ・ 提出部数 2部

地盤の載荷試験
試験方法 ・ 平板載荷 ・ ()
試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。
位置 ・ 図示(図面番号:) 載荷荷重 (kN)
報告書 ・ 提出部数 2部
杭地盤の工法、寸法
・ 図示(図面番号:)
杭頭処置
・ 行う ・ 行わない
砂利及び砂地盤
範囲 ・ 図示(図面番号:) 厚さ(mm) ・ 60 ・ ()
捨てコンクリート地盤
範囲 ・ 図示(図面番号:) 厚さ(mm) ・ 50 ・ ()

9 環境配慮改修工事

1 石綿含有建材の除去工事
(9.1.1)

・ 石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	計 点
・	測定 2		調査対象室外部の付近	計 点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内	計 点
・	測定 4		負圧・除じん装置の排出吹き出し口	出口吹き風速1m/s 以下の位置 計 点
・	測定 5		処理作業室外(敷地境界)	計 点
・	測定 6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	計 点
・	測定 7	処理作業後シート除去後 1 週間以降	処理作業室内	計 点
・	測定 8		調査対象室外部の付近	計 点

測定方法

	測定 3	測定 1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5
メンブレンフィルタ直径(mm)	25	25	47
試料の吸引流量(L/min)	・ 1 ・ ()	・ 5 ・ ()	・ 10 ・ ()
試料の吸引時間(min)	・ 5 ・ ()	・ 120 ・ ()	・ 240 ・ ()

(9.1.3)

・ 石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
除去工法 ・ 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による ・ ()
除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止
・ 湿潤化 ・ 固化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.4)

・ 石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
除去方法 ・ 改修標準仕様書9.1.4(1)による ・ ()
除去した石綿含有保温材等の処分
・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.5)

・ 石綿含有成形板の除去
除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
石綿含有せっこうボードの処分
・ 埋立処分(管理型最終処分場)
石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板の処分
・ 埋立処分(安定型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)

(9.1.6)

・ 石綿含有仕上塗材の除去
除去対象範囲 ・ 図示(図面番号:)
除去した石綿含有仕上塗材等の処分
・ 埋立処分(管理型最終処分場) ・ 中間処理(溶融又は無害化による)
※大気汚染防止法および石綿障害予防規則に加え、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル(令和3年3月)」に基づき適切に処理すること。
・ 除去等作業の結果報告
除去等作業が終了したときは環境省令で定めるところにより、その結果を遅滞なく発注者に書面で報告すること。

2 断熱アスファルト防水改修工事
(9.2.1)～(9.2.3)

改修特記仕様書3章による

3 外断熱改修工事
(9.3.2)

断熱材

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ロックウール断熱材	
・ グラスウール断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

外装材

種類	防火性能	備考
・		

(9.3.3)

既存外壁の措置

既存外壁仕上材の撤去 ・ あり ・ なし
下地面の清掃 ・ 行う ・ 行わない
欠損部の改修工法 ・ 充填工法 ・ モルタル塗替え工法 ・ ()

(9.3.4)

工法

通気層の有無 ・ あり(mm) ・ なし
断熱材の施工 ・ 断熱材製造所の仕様による ・ ()
外装材の施工 ・ 外装材製造所の仕様による ・ ()
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法)
・ 適用しない
不陸等の下地調整 ・ 行う

4 断熱・防露改修工事
(9.5.2)

断熱材打込み工法

種類	厚さ[mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	
・ フェノールフォーム断熱材	
・ ()	

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.5.3)

断熱材現場発泡工法

断熱材の種類 ・ A種 1 ・ A種 1H ・ ()
厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ・ ()
施工箇所 ・ 図示(図面番号:)
・ 現場発泡断熱材(品質・性能)
工事建築材料等品質性能表による(試験方法)
工事建築材料等品質性能表による

(9.5.4)

断熱材後張り工法

種類	せっこうボード等の張り付け	厚さ [mm]
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有	・ 無
・ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材	・ 有	・ 無
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・ 有	・ 無
・ フェノールフォーム断熱材	・ 有	・ 無
・ ()	・ 有	・ 無

施工箇所 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

5 屋上緑化改修工事
(9.6.1)～(9.6.3)

植栽基盤及び材料

屋上緑化軽量システム
・ 適用する ・ 適用しない
芝及び地被類の樹種並びに種類等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

(9.6.3)

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・ 適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・ 適用しない
かん水装置 ・ 設置する(種類 ・)
既存保護層の撤去 ・ 行う ・ 行わない

6 透水性アスファルト舗装改修工事
(9.5.2)～(9.5.7)(9.5.9)

既存舗装の撤去及び再利用 ・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床

種別	材料	厚さ[mm]
・ 盛土	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 川砂、海砂又は良質な山砂(7μmふるい通過量10%以下) ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()
・ フィルター層	・ 砂 ・ ()	・ 図示(図面番号:) ・ ()

路床安定処理
・ 添加材料による安定処理
種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントB種
・ 生石灰(・ 特号 ・ 1号) ・ 消石灰(・ 特号 ・ 1号)
添加量(kg/m2) (目標CBR ・ 5以上 ・)
・ ジオテキスタイル
単位面積質量 ・ 60g/m2以上 ・ ()
厚さ[mm] ・ 0.5～1.0 ・ ()
引張強さ ・ 98N/5cm(10kgf/5cm) 以上 ・ ()
透水係数 ・ 1.5×10⁻⁴ -1cm/sec 以上 ・ ()

試験

路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない
路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない
現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない

路盤

路盤の構成及び厚さ ・ 図示(図面番号:) ・ ()
路盤材料 ・ 再生材のクラッシャーラン
・ クラッシャーラン鉄鋼スラグ
・ 図示(図面番号:)
・ ()

試験

路盤締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない

舗装

材料	厚さ[mm]
・ ストレートアスファルト	・ 図示(図面番号:) ・ ()

試験

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない
舗装の平たん性 ・ 著しい不陸がないもの ・ ()

アルテック設計

三重県津市大谷町233番地
TEL:059-225-1602 FAX:059-225-3192

一級建築士 第177266号
伊藤 公智

最終更新

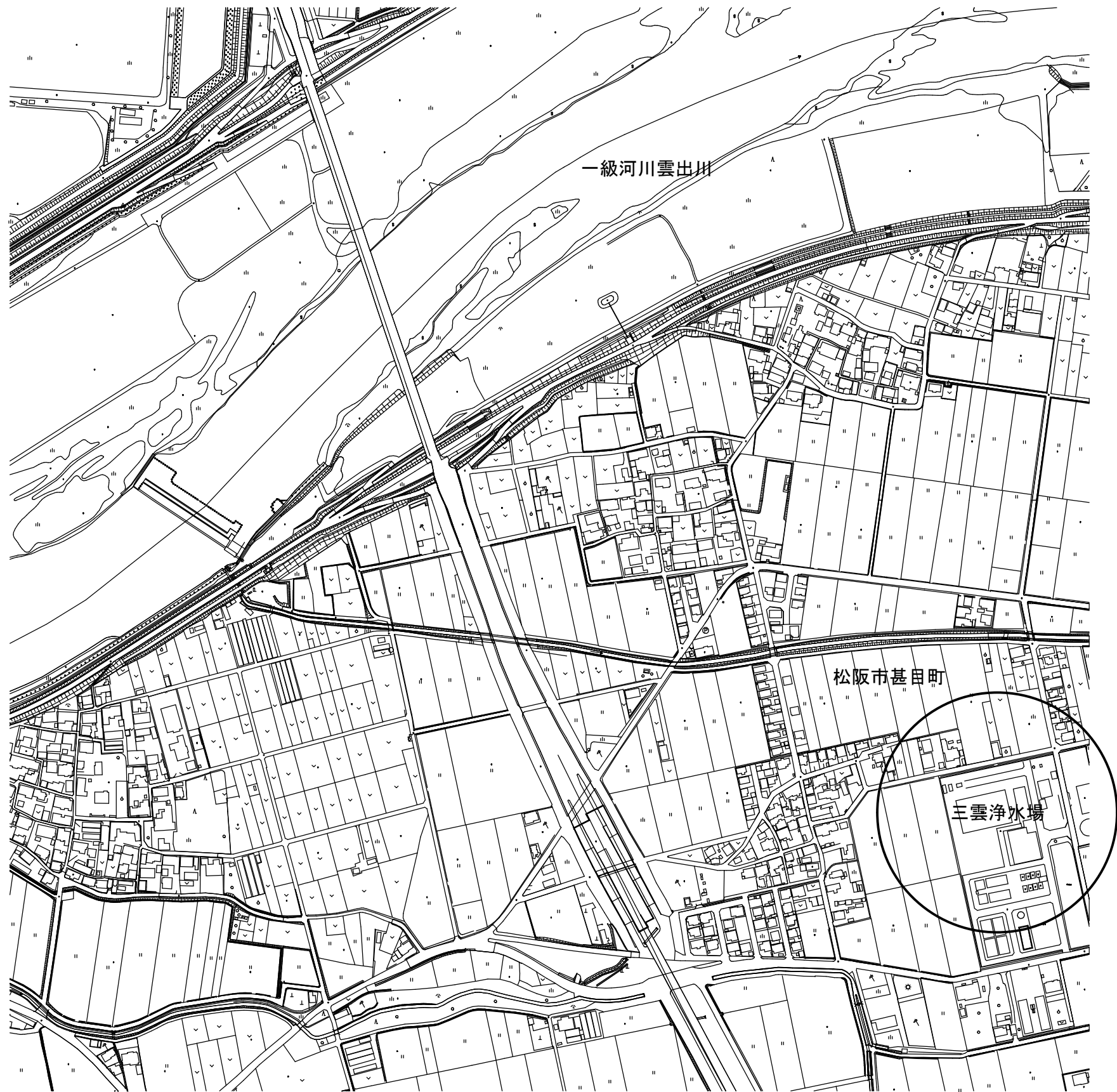
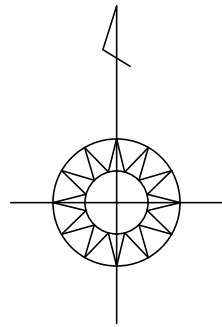
原図：A2

三雲浄水場配水池点検口建屋改修工事

改修工事特記仕様書 7

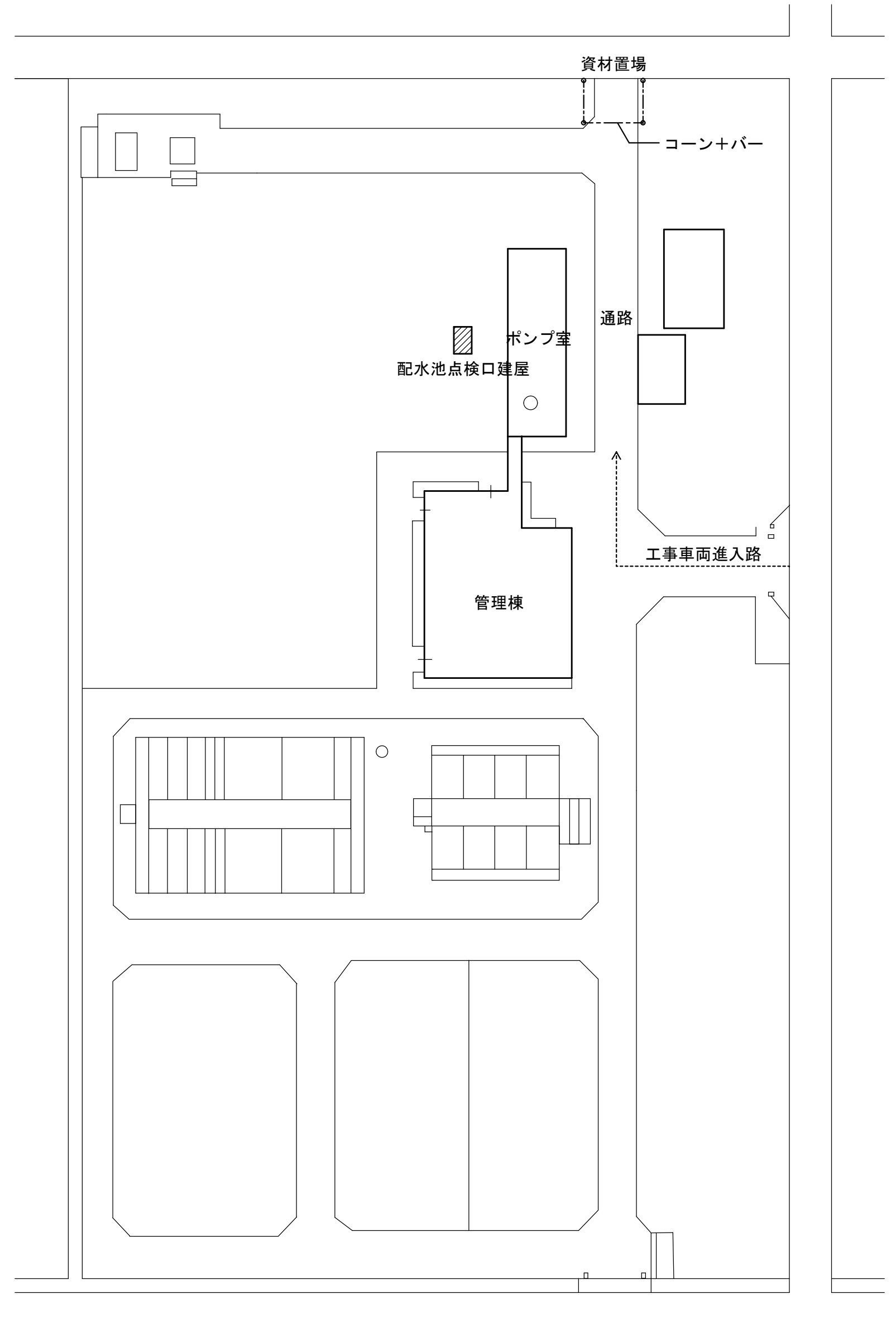
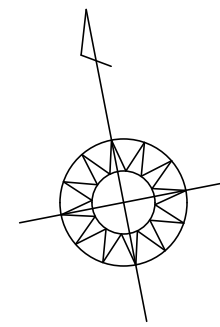
A - 7

S: 1/100



付近見取図

S: non



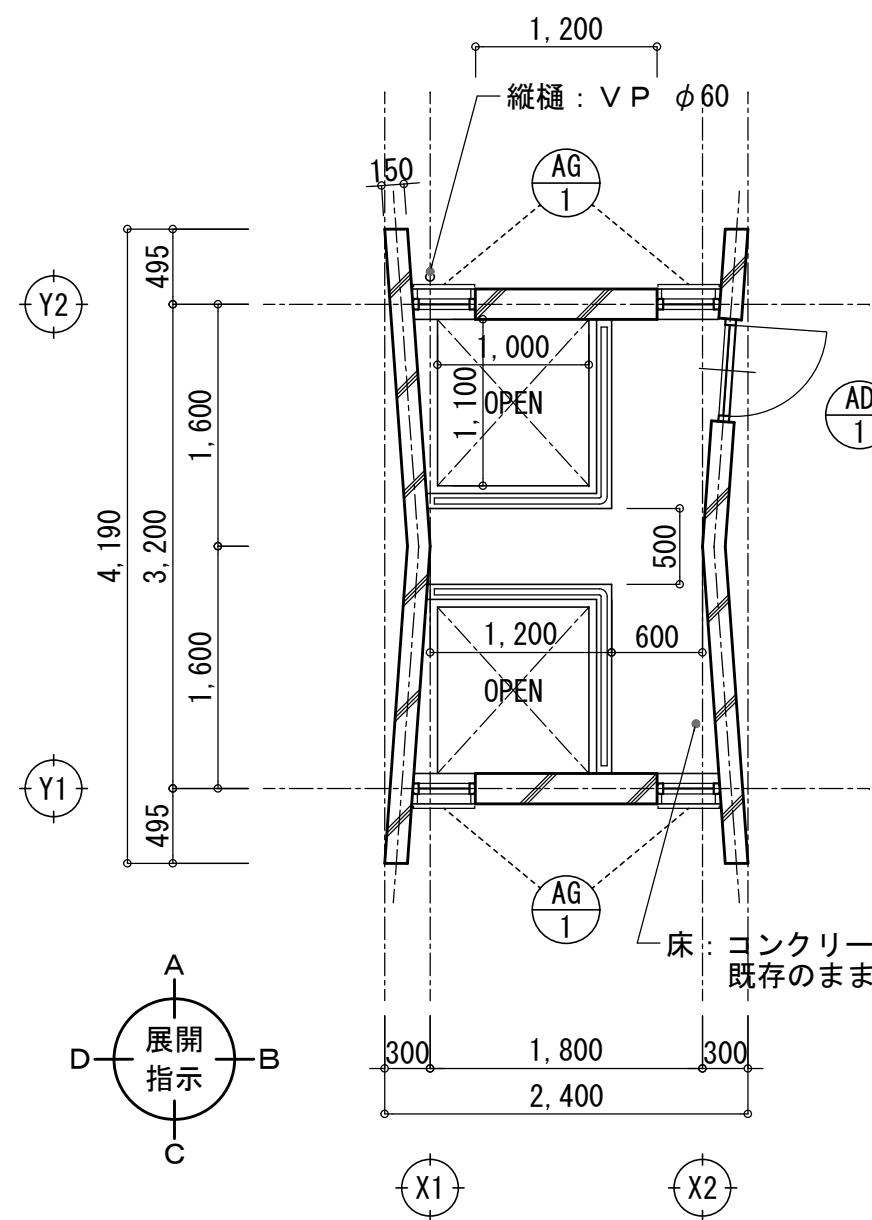
配置図

S: 1/500

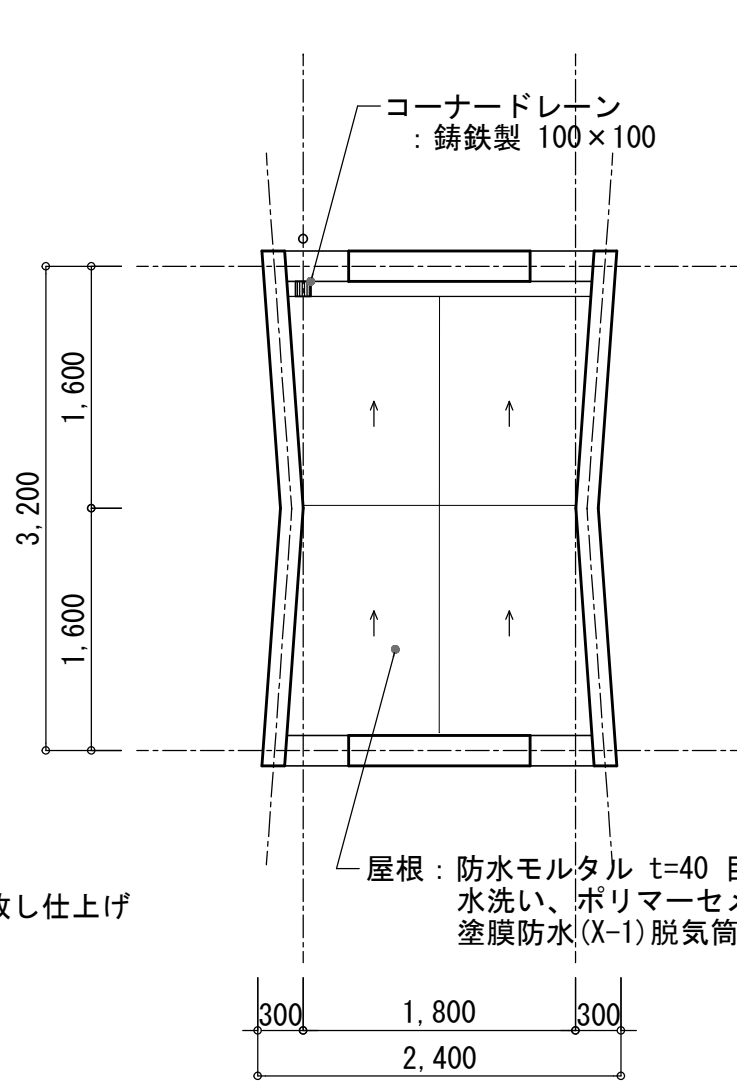
凡例

改修建物を示す

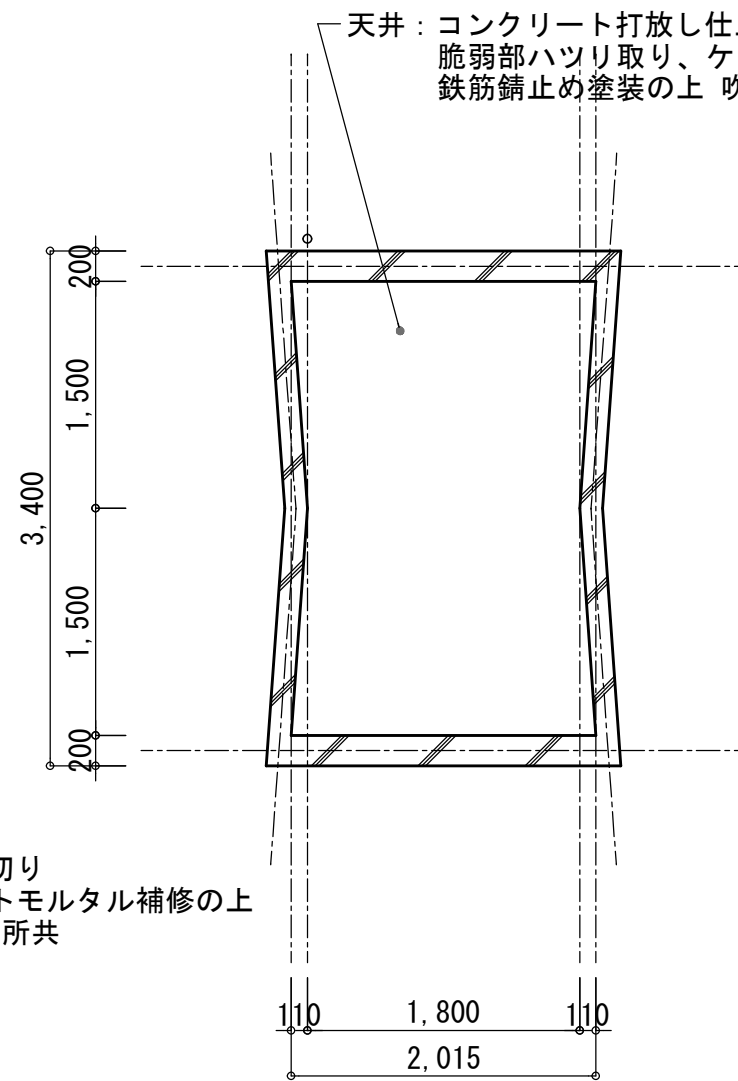
※ 通路以外
大型車両進入禁止



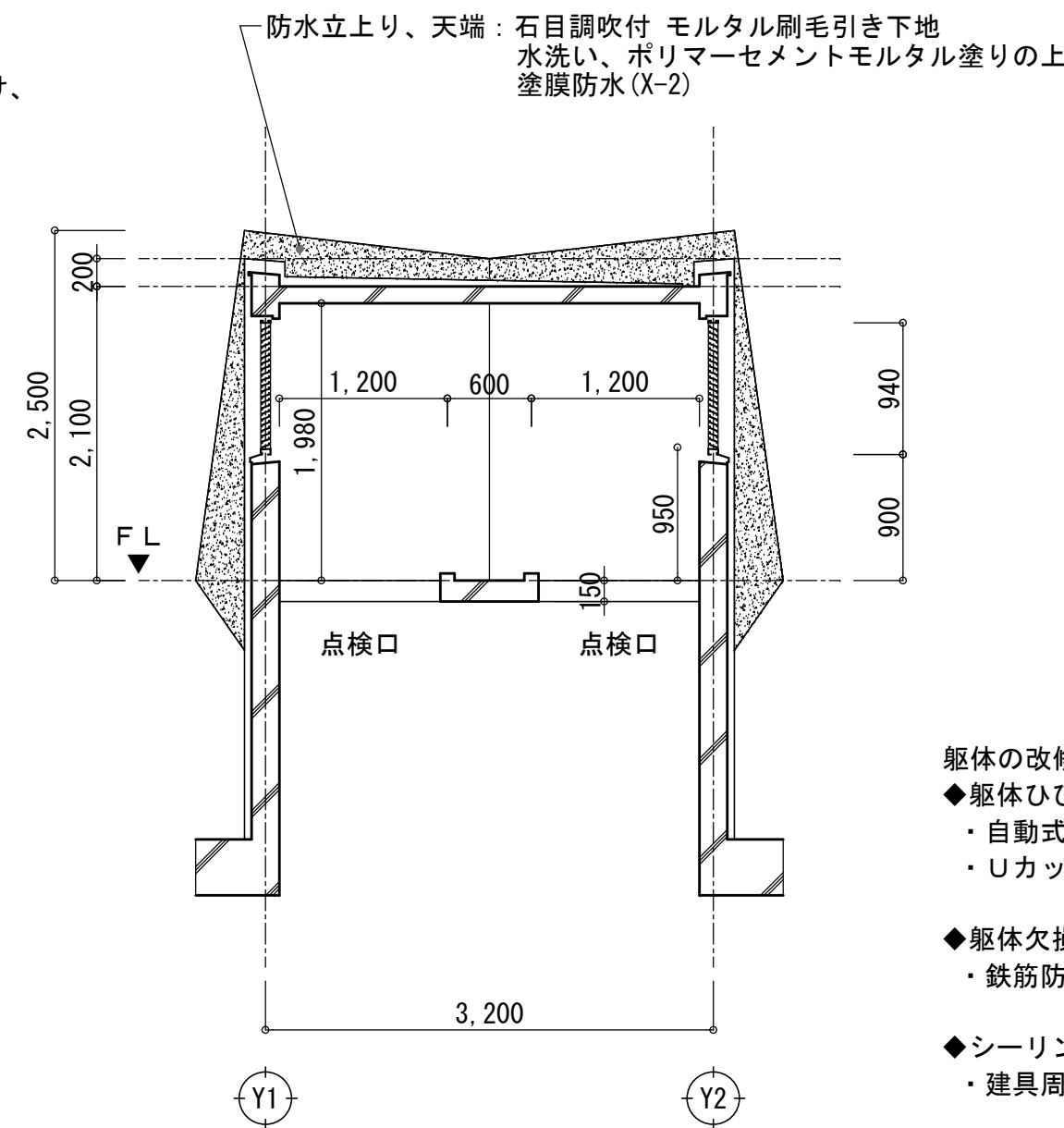
平面図 S: 1/50



屋根伏図 S: 1/50

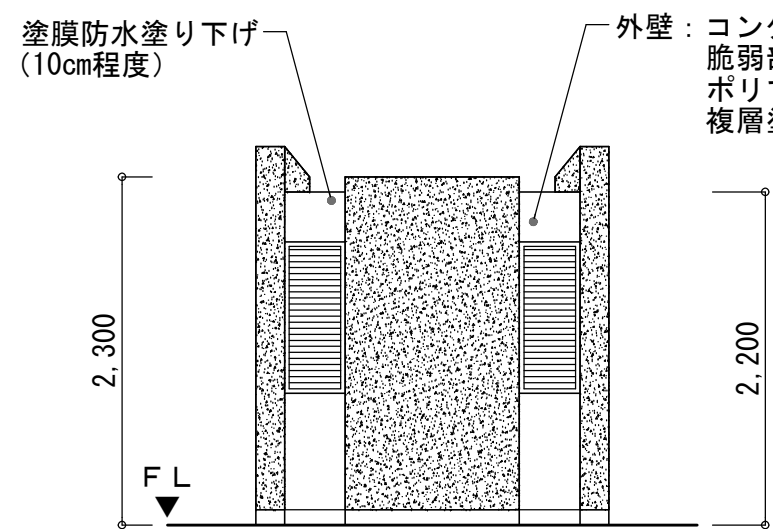


天井伏図 S: 1/50

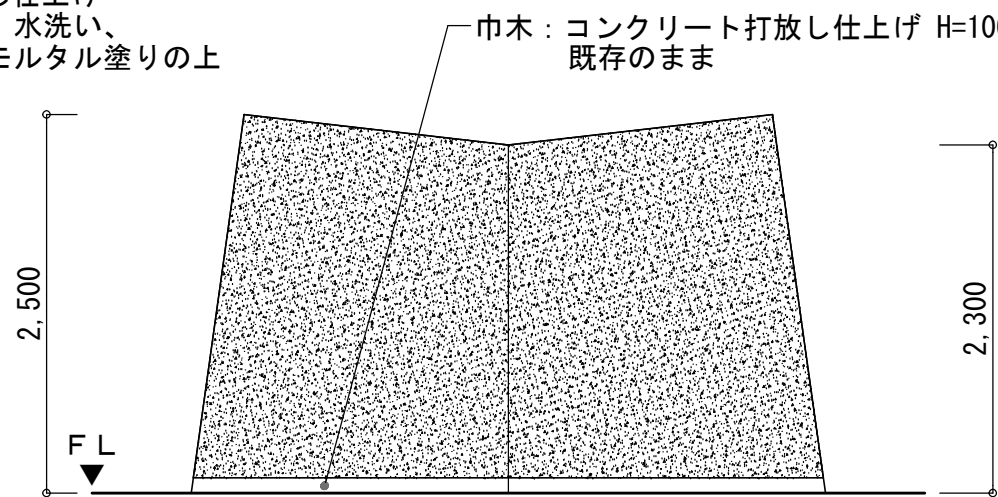


断面図 S: 1/50

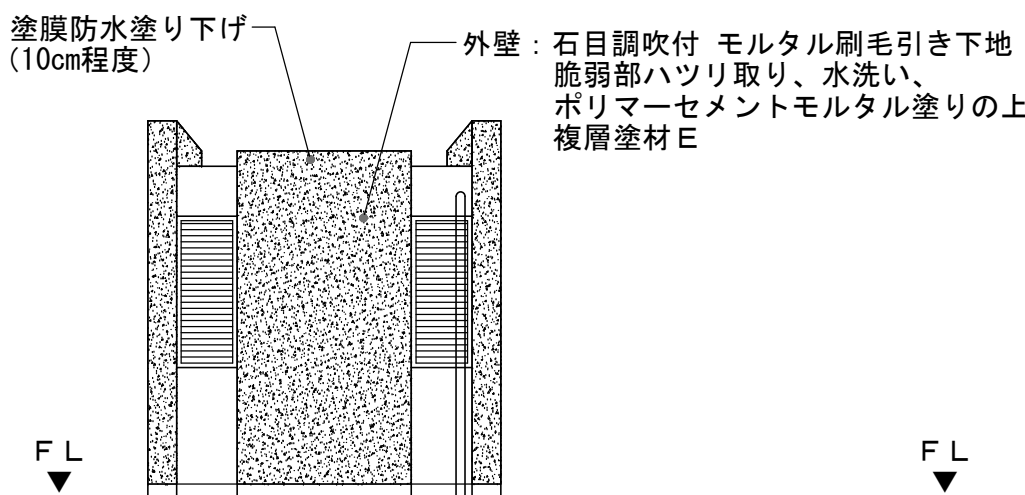
- 躯体の改修について(外壁、内壁)
- ◆躯体ひび割れの改修方法
 - ・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 (1mm以下)
 - ・Uカットシール材充填工法 (1mm以上)
 - ◆躯体欠損、爆裂の改修方法
 - ・鉄筋防錆の上、樹脂モルタル充填
 - ◆シーリングの改修方法
 - ・建具周囲は撤去の上新設 (MS-2)



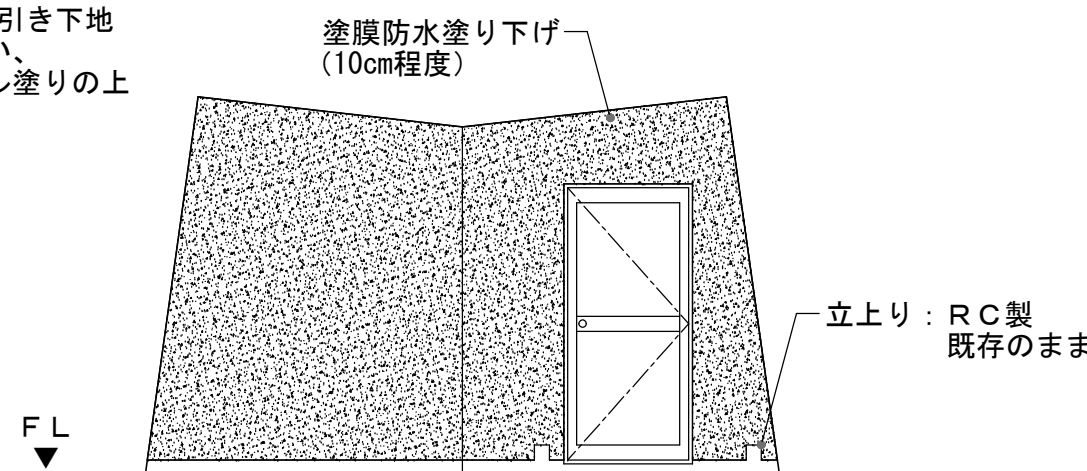
南立面図 S: 1/50



西立面図 S: 1/50

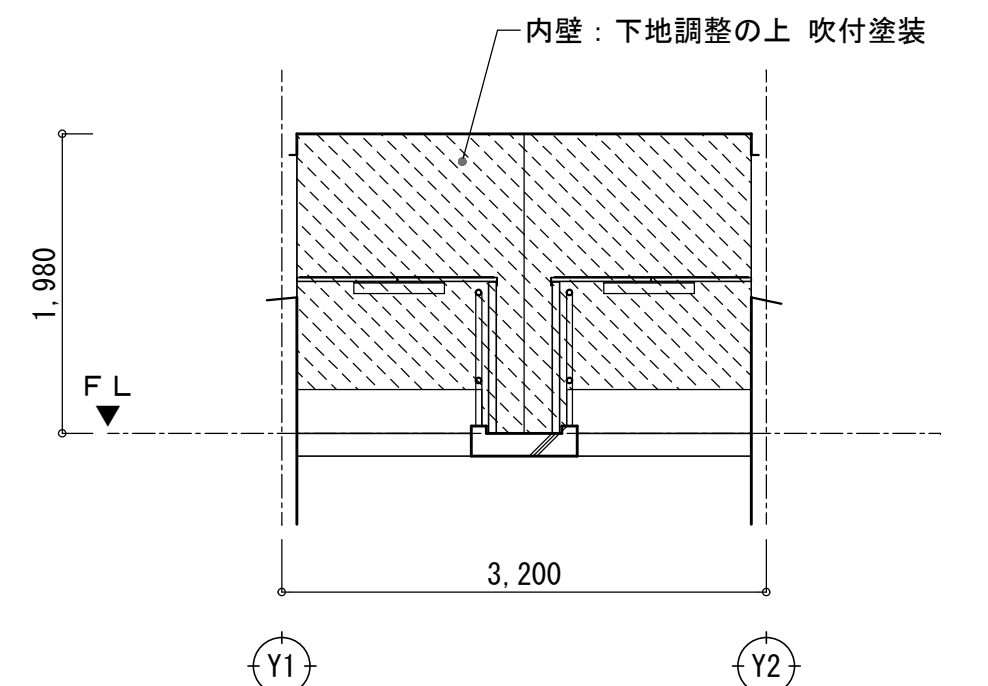
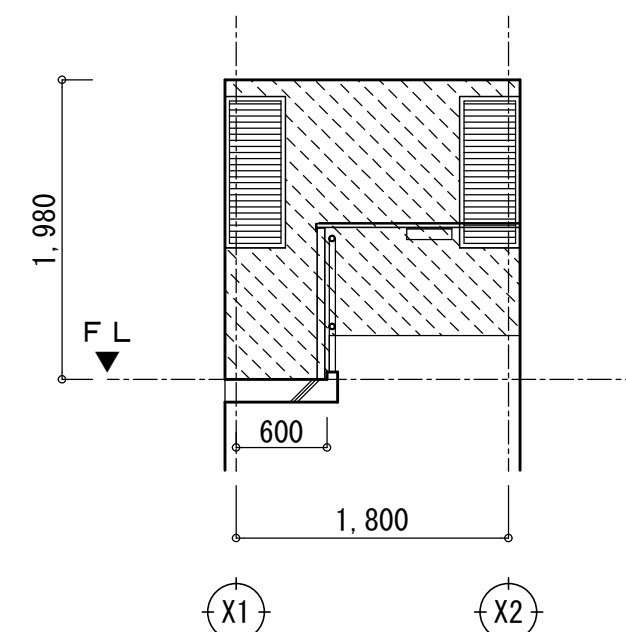
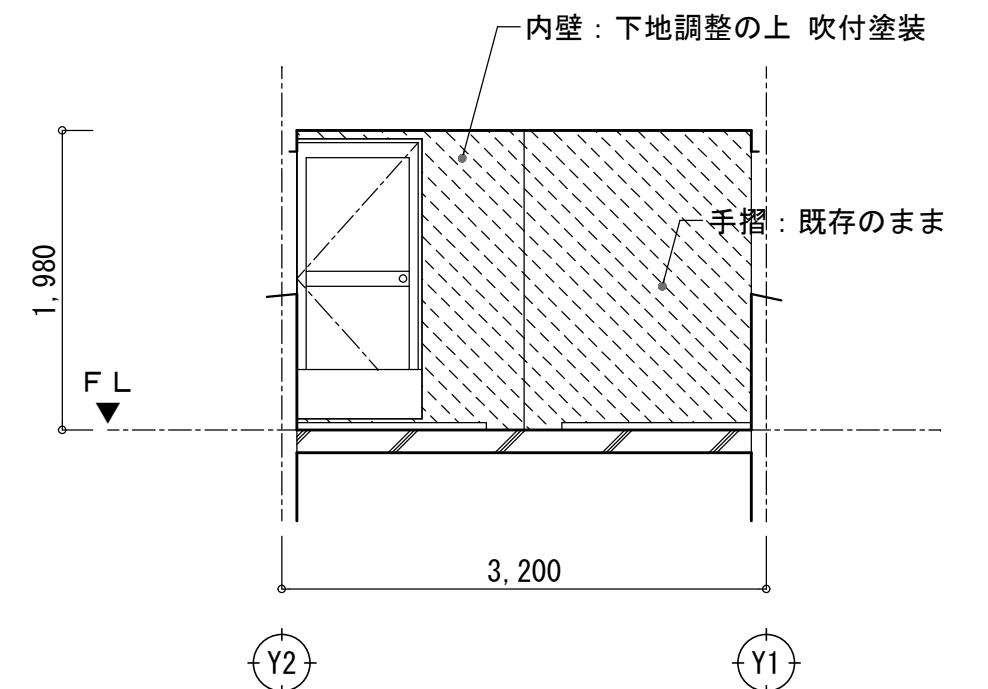
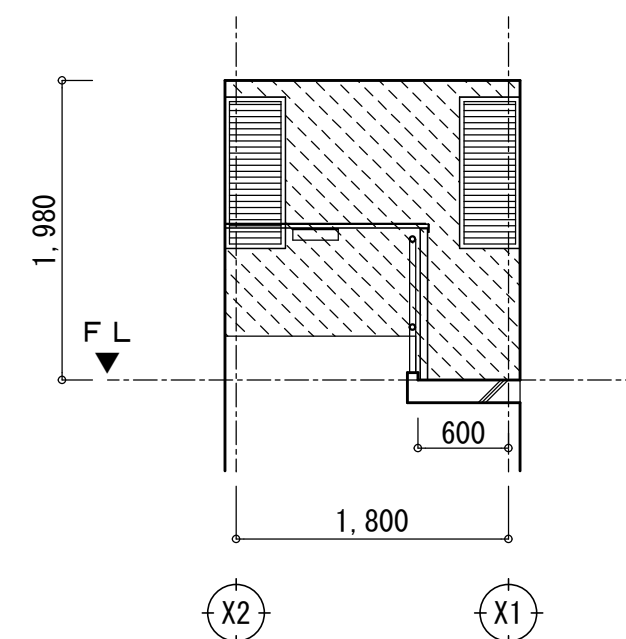
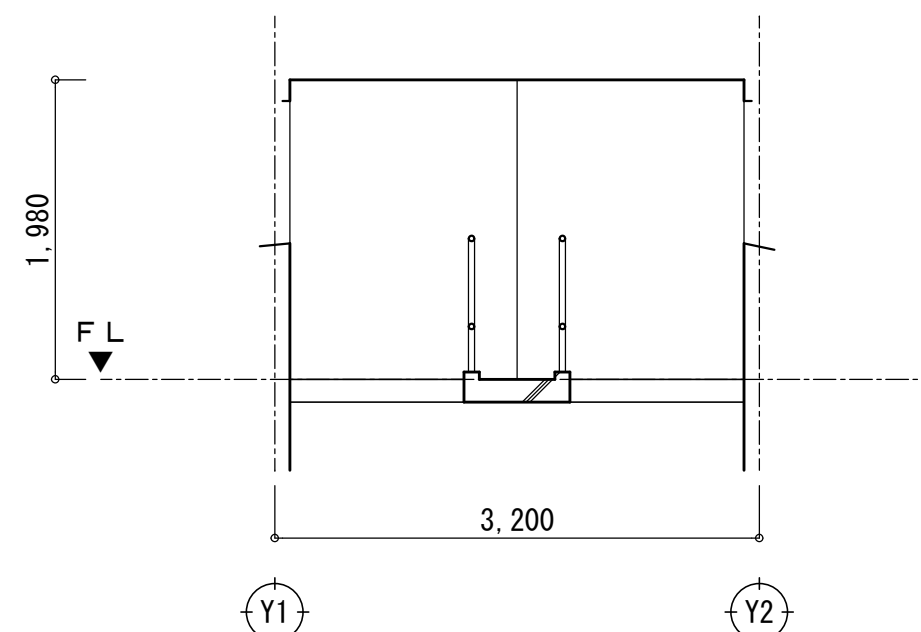
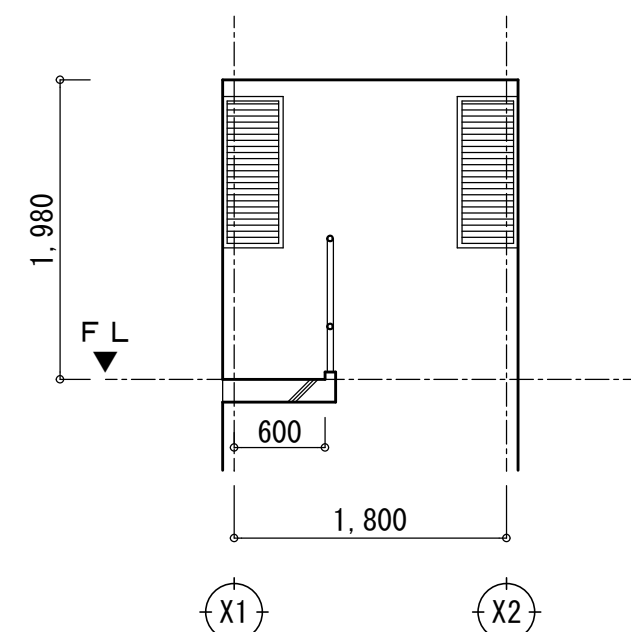
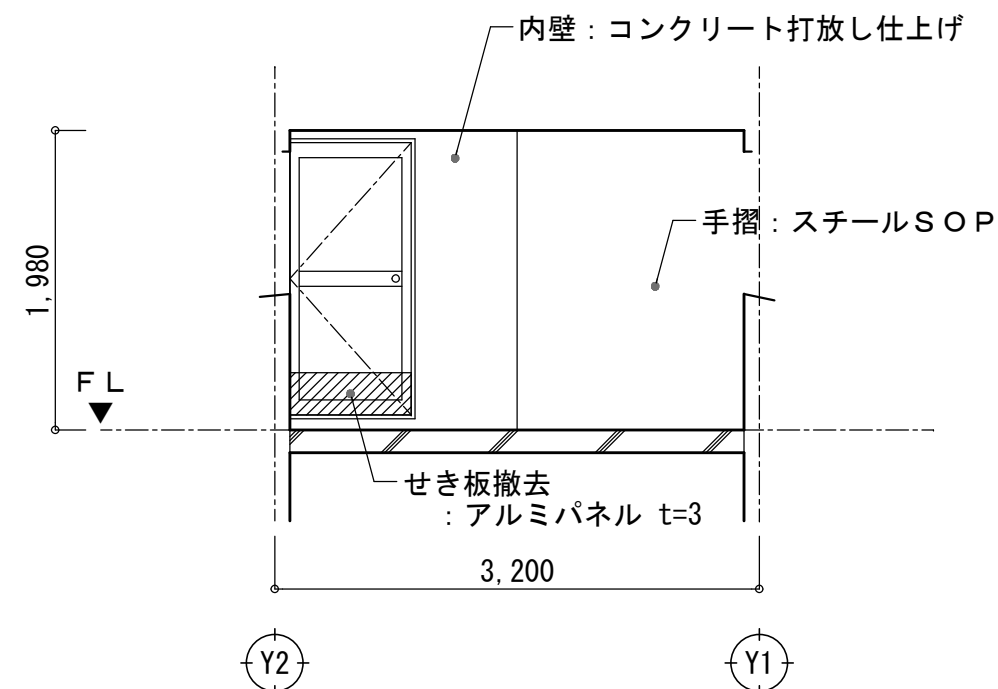
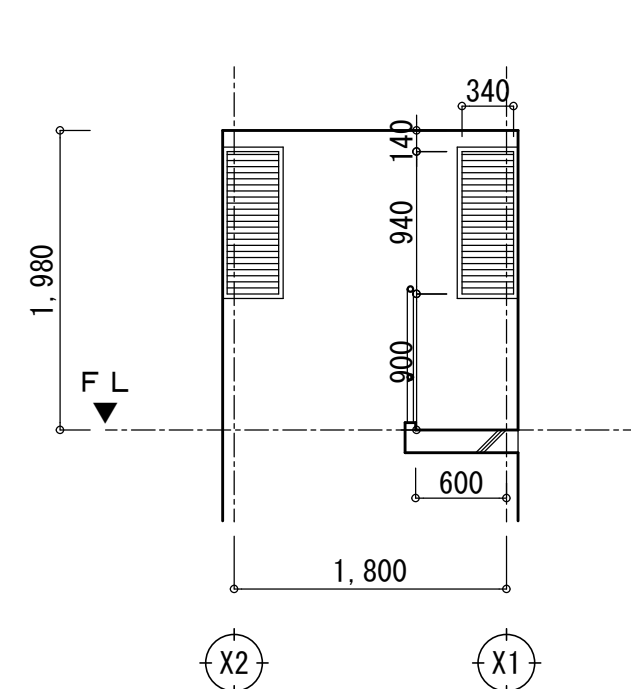


北立面図 S: 1/50

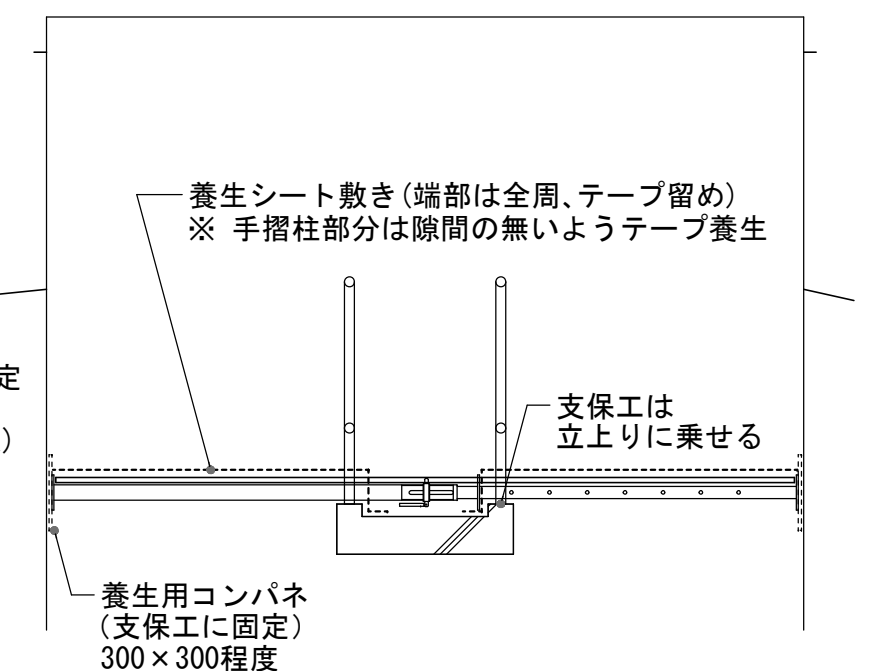
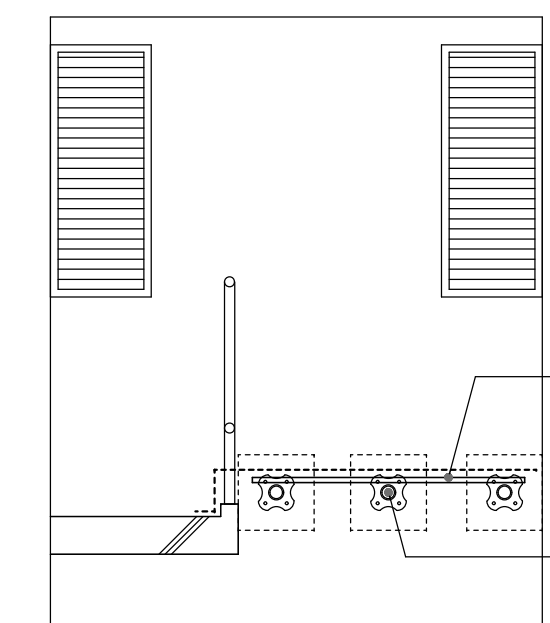


東立面図 S: 1/50

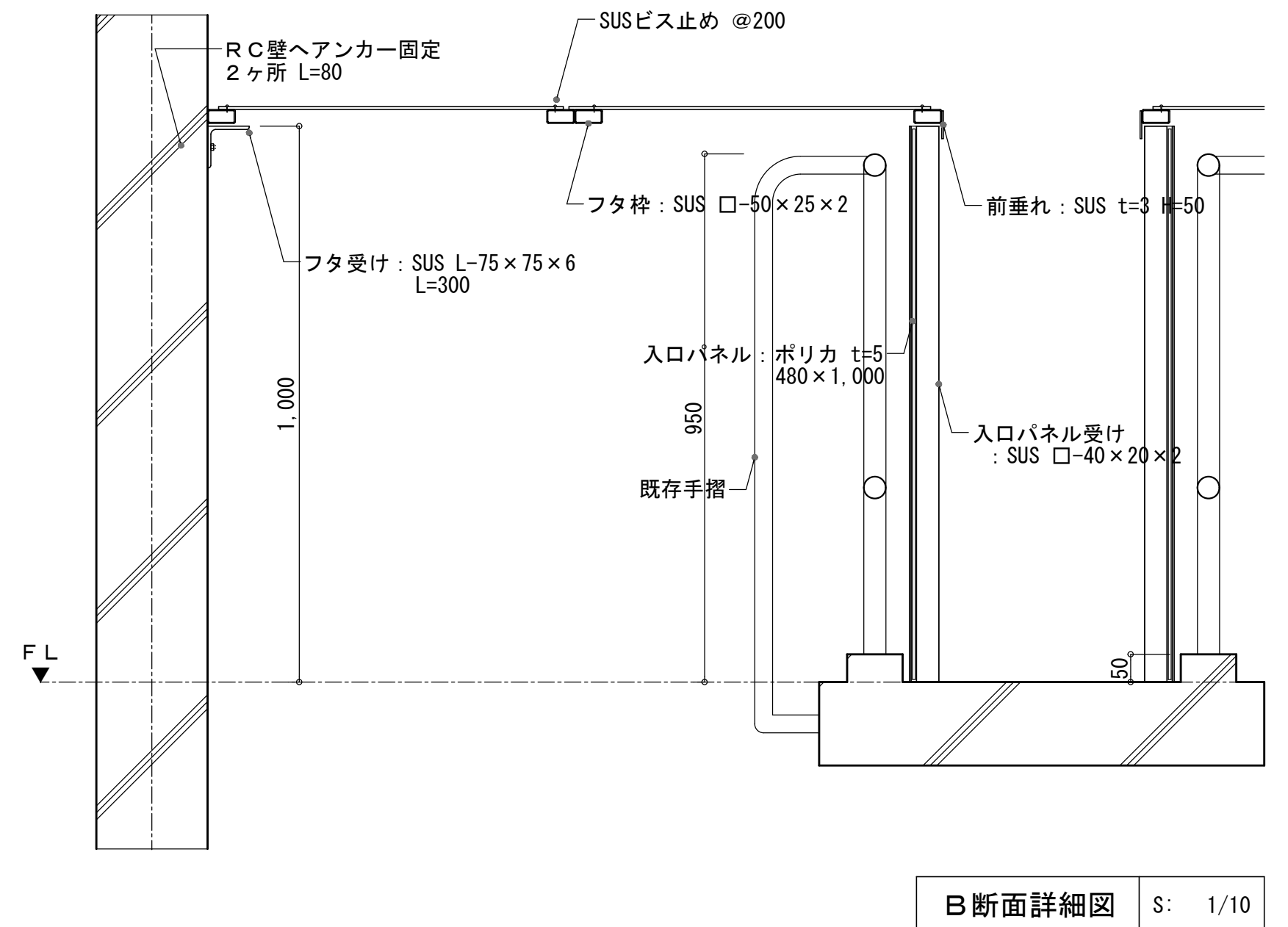
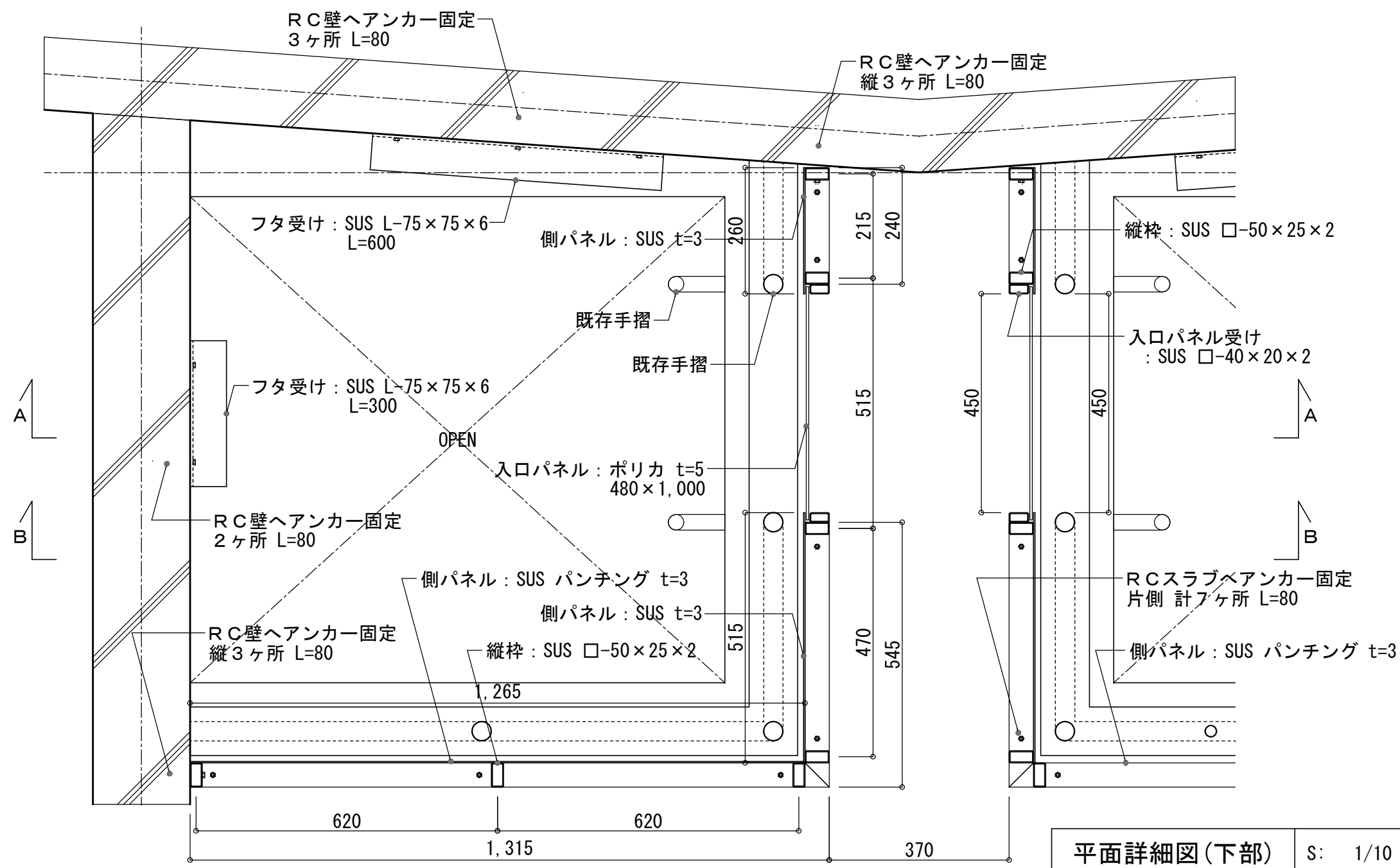
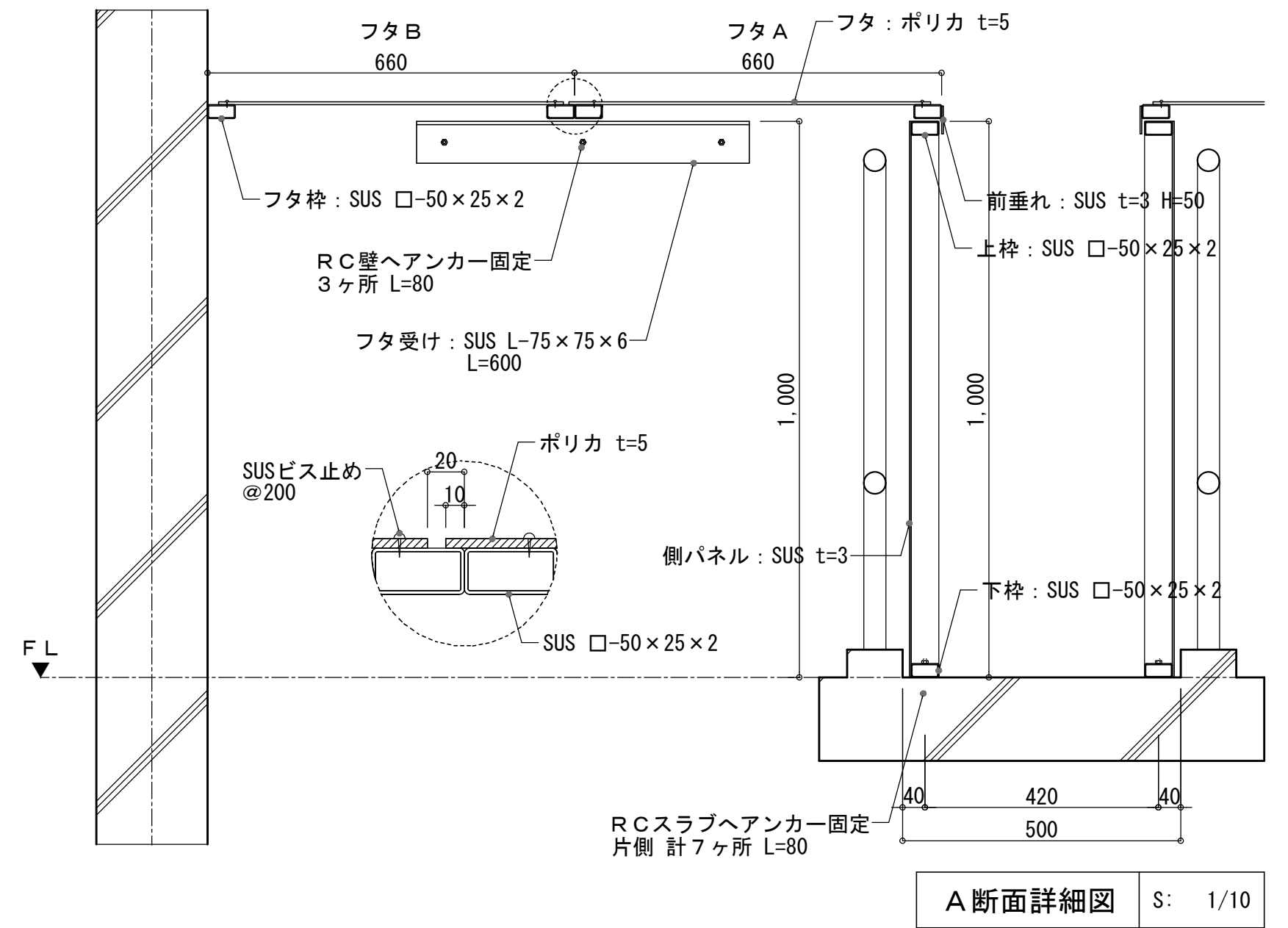
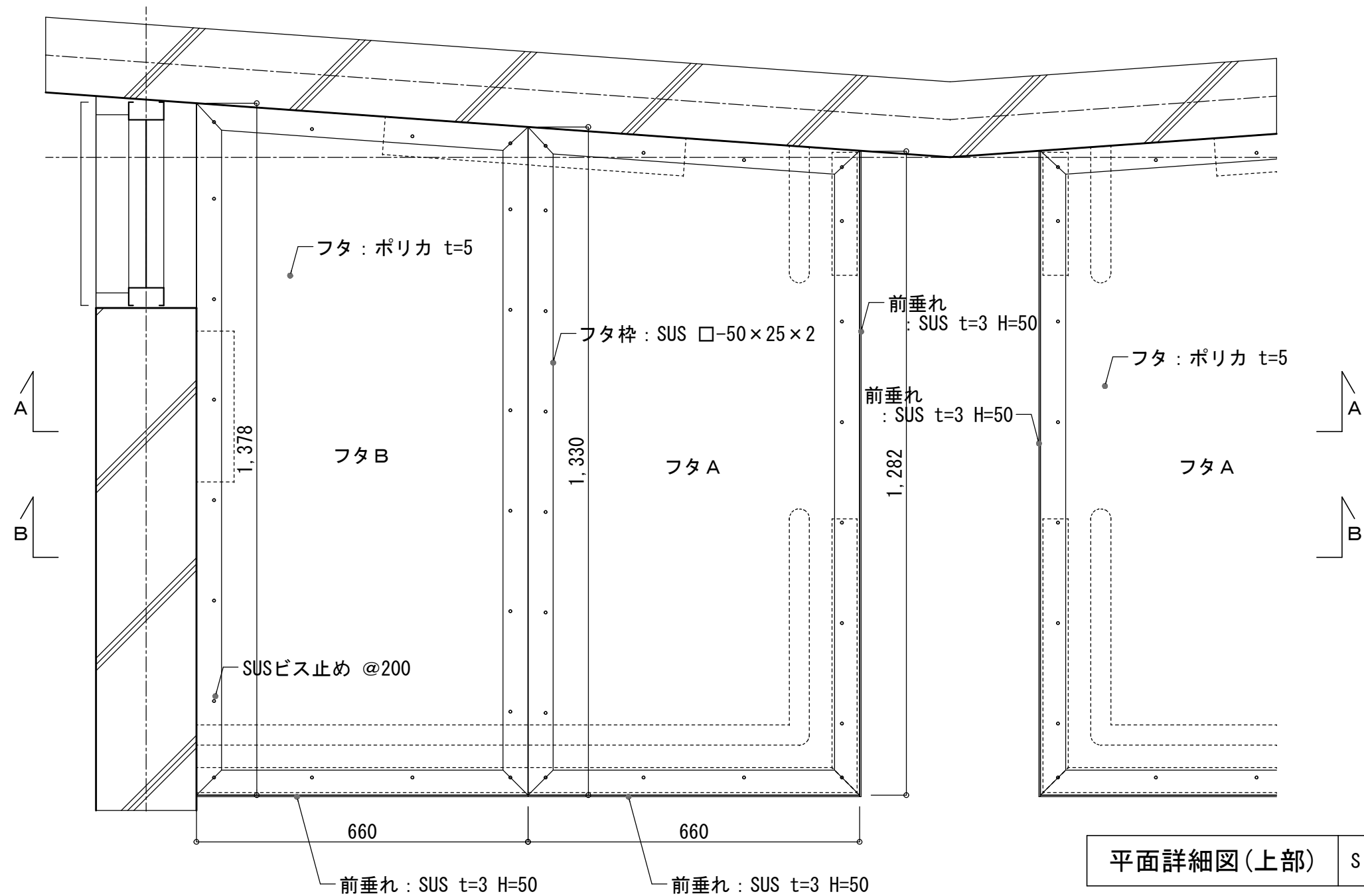
仕 上 表		
	改修前	改修後
屋根	防水モルタル t=40 目地切り	水洗い、ポリマーセメントモルタル補修の上 塗膜防水(X-1)脱気筒(SUS製)共
防水立上り 天端	石目調吹付 モルタル刷毛引き下地	水洗い、ポリマーセメントモルタル塗りの上 塗膜防水(X-2) 外壁面塗り下げ (10cm程度)
コーナードレン	鋳鉄製 100×100	既存のまま
樋	V P φ60	下地調整の上 D P
外壁	石目調吹付 モルタル刷毛引き下地	脆弱部ハツリ取り、水洗い、ポリマーセメントモルタル塗りの上 複層塗材E
	コンクリート打放し仕上げ	脆弱部ハツリ取り、水洗い、ポリマーセメントモルタル塗りの上 複層塗材E
巾木	コンクリート打放し仕上げ H=100	既存のまま
天井	コンクリート打放し仕上げ	脆弱部ハツリ取り、ケレン掛け、鉄筋錆止め塗装の上 E P吹付
内壁	コンクリート打放し仕上げ	下地調整の上 E P吹付
床	コンクリート打放し仕上げ	既存のまま
手摺	スチールS O P	既存のまま
片開き戸	アルミ製 800×1,800	カバー工法にて改修
ガラリ	アルミ製 340×940 SUS網戸付き	カバー工法にて改修
※ 内部E Pは、低臭性・低V O C・防カビ性のものとする。		



番 号	名 称	AD-1	アルミ片開き戸	AG-1	アルミガラリ
姿 図	FL ▼				
場 所	点検口建屋			点検口建屋	
箇 所	1			4	
見込み / 仕上	70 → 同じ	アルマイト素地 → 同じ		70 → 同じ	アルマイト素地 → 同じ
ガ ラ ス	アルミパネル t=4 → 同じ				
金 物	丁番、握り玉錠、ドアチェック、付属金物一式 → 同じ			SUS網戸 → 同じ	
改 修 内 容	改修 (ALC用サッシにてカバー工法)			改修 (ALC用サッシにてカバー工法)	



※ 点検口への粉塵等の落下に注意して養生を行うこと。



※ 手掛け 及び 落下防止ワイヤーを適宜設けること。

※ R C躯体へのアンカーは全てM6ケミカルアンカーとする。